

# 東北地方 3か月予報

(4月から6月までの天候見通し)

平成18年3月23日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。  
この期間の平均気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

4月 天気は数日の周期で変化するでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。なお、東北地方の山沿いでは平年に比べて積雪量が多くなっていますので、なだれや融雪災害に注意して下さい。

気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

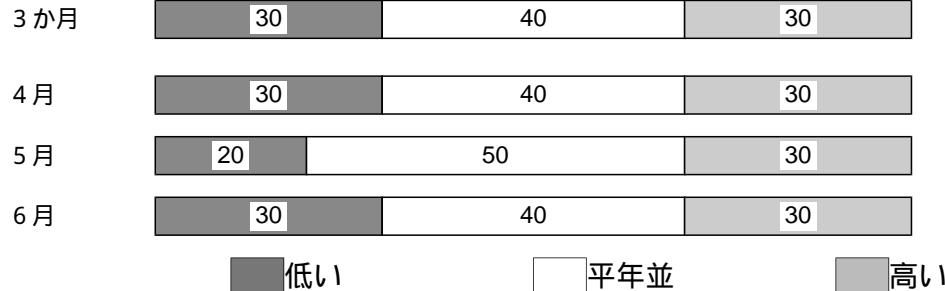
5月 移動性高気圧に覆われる日が多く、東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
気温は平年並、降水量は平年並か少ないでしょう。

6月 前線やオホツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

## <向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

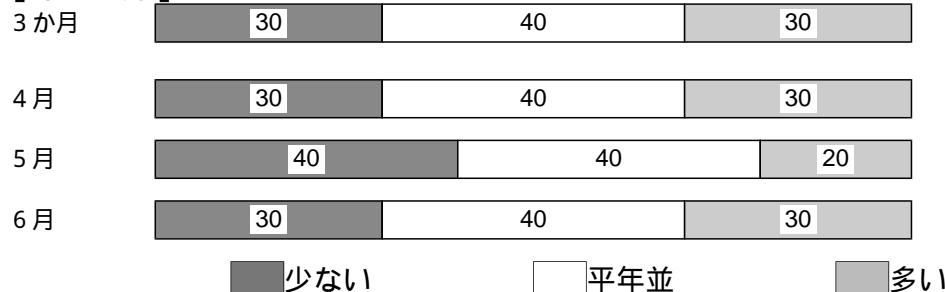
### <<気温>>

#### [東北地方]



### <<降水量>>

#### [東北地方]



**<次回発表予定等>**

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は3月24日

3か月予報：4月25日（火）14時

なお、最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ暖候期の天候について検討しましたが、2月23日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。

## <参考資料(平年並の範囲等)>

### (1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量)

	気温( )				降水量(mm)			
	4月	5月	6月	4月～6月	4月	5月	6月	4月～6月
大船渡	9.0	13.6	17.3	13.3	138.0	149.8	171.5	449.3
新庄	8.1	14.2	18.7	13.7	98.3	106.6	131.0	332.1
若松	9.9	15.5	19.8	15.1	63.4	80.5	115.7	259.6
深浦	8.3	13.0	17.2	12.8	93.3	108.8	109.4	308.6
青森	7.9	13.1	17.0	12.7	60.7	78.8	82.2	221.7
むつ	7.2	12.1	15.6	11.7	81.1	92.3	109.0	282.3
八戸	8.3	13.1	16.1	12.5	58.9	84.7	99.2	242.8
秋田	9.2	14.2	18.8	14.1	117.6	122.8	127.5	367.9
盛岡	8.4	13.8	18.2	13.4	93.8	103.3	114.9	312.1
宮古	8.7	13.1	16.0	12.6	96.3	98.4	117.3	311.9
酒田	9.8	14.9	19.3	14.7	105.5	116.8	128.1	350.4
山形	9.8	15.4	19.5	14.9	68.1	81.3	102.6	251.9
仙台	10.1	14.9	18.3	14.4	98.1	107.9	137.9	343.9
石巻	9.2	14.0	17.7	13.6	91.8	98.2	111.6	301.6
福島	11.3	16.5	19.9	15.9	79.5	87.5	118.1	285.1
白河	9.8	14.8	18.4	14.3	100.5	120.0	167.6	388.0
小名浜	11.1	15.1	18.3	14.8	128.3	147.0	149.8	425.1

欠測により平年値を求めるための資料年数(観測値のある年数)が各月毎に異なることなどにより、3か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

(2) 1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	4月	5月	6月	4月～6月
気温平年差( )	東北地方	-0.3～+0.5	-0.3～+0.4	-0.6～+0.2	-0.2～+0.2
	東北日本海側	-0.5～+0.6	-0.3～+0.4	-0.5～+0.2	-0.2～+0.2
	東北太平洋側	-0.5～+0.5	-0.3～+0.4	-0.5～+0.2	-0.2～+0.2
降水量平年比(%)	東北地方	89～112	86～115	82～118	94～108
	東北日本海側	90～110	84～110	71～105	92～110
	東北太平洋側	84～113	82～111	88～111	89～112

### (4) 接近する台風の平年値

	4月	5月	6月
東北地方	0.0	0.0	0.1

## <参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 3か月予報解説資料 (4~6月)

平成18年3月23日 仙台管区気象台

## 1. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想 3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図（右図）：

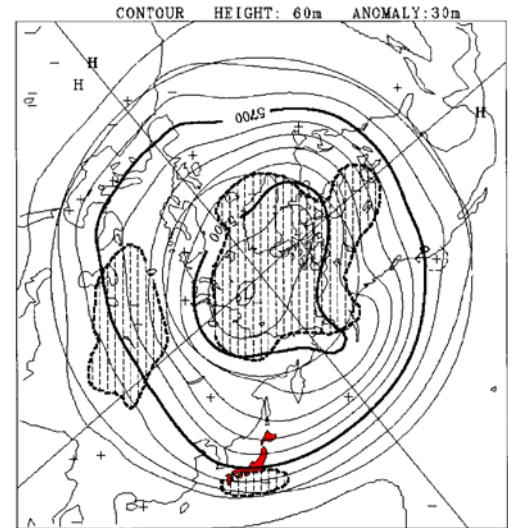
予想図では極付近は負偏差域（寒気に対応）に覆われる。中緯度帯は正偏差（暖気に対応）だが、中央アジアと日本の南に負偏差が見られ、日本付近の偏差は小さい。

月別の地上気圧と偏差の予想図（下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。）：

**4月**：西日本を中心に高気圧に覆われやすいが、東北地方は、気圧の谷や寒気の影響を数日の周期で受ける見込み。天気は数日の周期で変化するが、平年同様高気圧に覆われ晴れる日が多い見込み。

**5月**：日本付近は東西に伸びる高圧帯で東北地方は平年同様晴れの日が多い。ただし正偏差の中心は東北地方からみると北に偏っていて高気圧が東北地方の北を通り、東北太平洋側では湿った東よりの風の影響を受け、一時天気がぐずつく可能性もある。

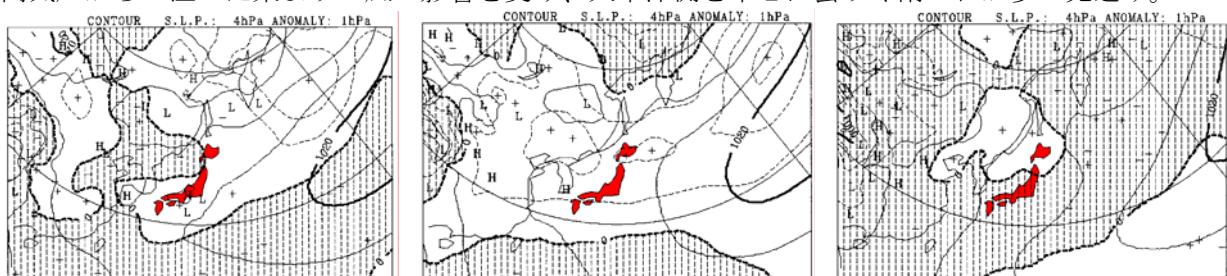
**6月**：日本付近は本州から南海上は平年より気圧が低い。北海道付近は平年より気圧が高い。いずれも偏差は小さいが、東北地方は平年同様梅雨前線やオホーツク海高気圧からの湿った東よりの風の影響を受け、太平洋側を中心に曇りや雨の日が多い見込み。



3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図

実線は等高度線：60m、点線は偏差：30m

陰影部：負偏差

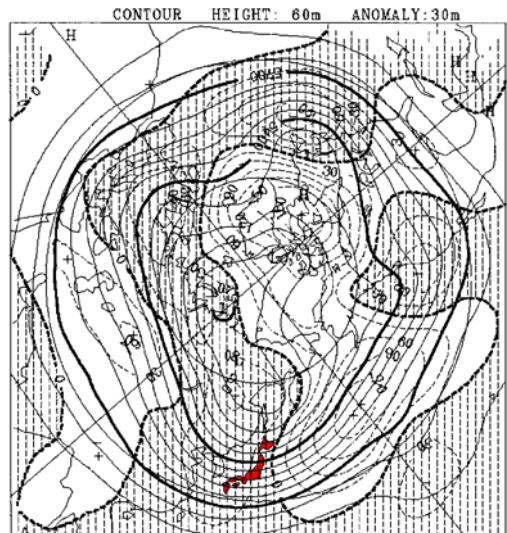


月別の地上気圧と偏差の予想図（左から4月、5月、6月）

実線は等圧線：4hPa、点線は偏差：1hPa、陰影部：負偏差

## 2. 循環場の特徴

**3月**：500hPa高度では、日本の東海上は正偏差（暖気に対応）だが、日本付近から大陸東岸にかけては負偏差域（寒気に対応）。日本の東海上の高度が高い場合、寒気の影響は受けにくく高温になりやすい。このため東北地方は一時的に寒気の影響を受けることはあったが、高温傾向で経過している。



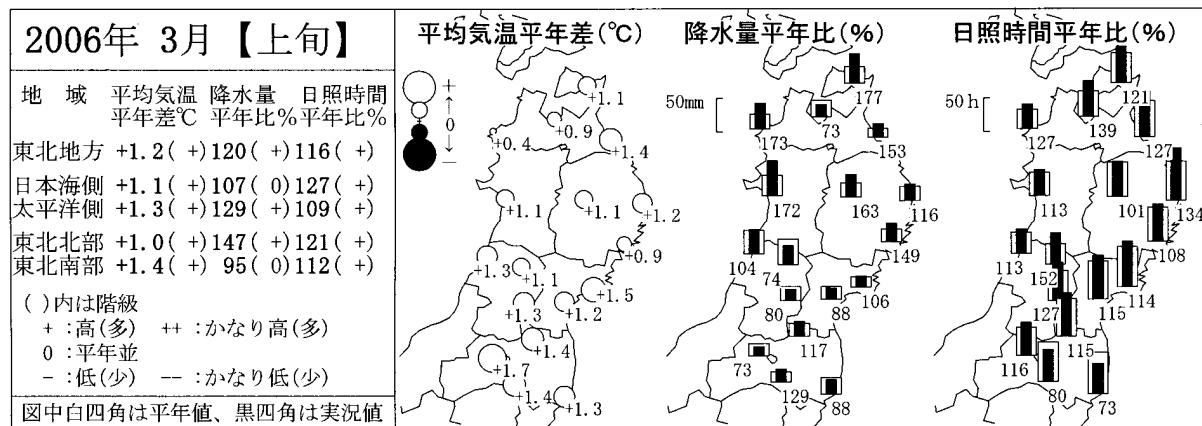
3月平均500hPa高度（予想値を含む）

等高度線：60m、偏差：30m、陰影部：負偏差

### 3. 最近の天候経過

3月上旬：低気圧や前線が数日の周期で通過した。東北日本海側では、短い周期で天気が変化し、曇りや雨または雪の日が多くたが、東北太平洋側では前線の影響は小さく、晴れの日が多くた。寒冷前線の通過した8日は、西よりの風が強まり、宮城県では飛散物により負傷者がでたり、鉄道の運休など交通障害が発生した。最大風速は仙台で18.6メートル、最大瞬間風速は仙台で32.3メートルを観測した。

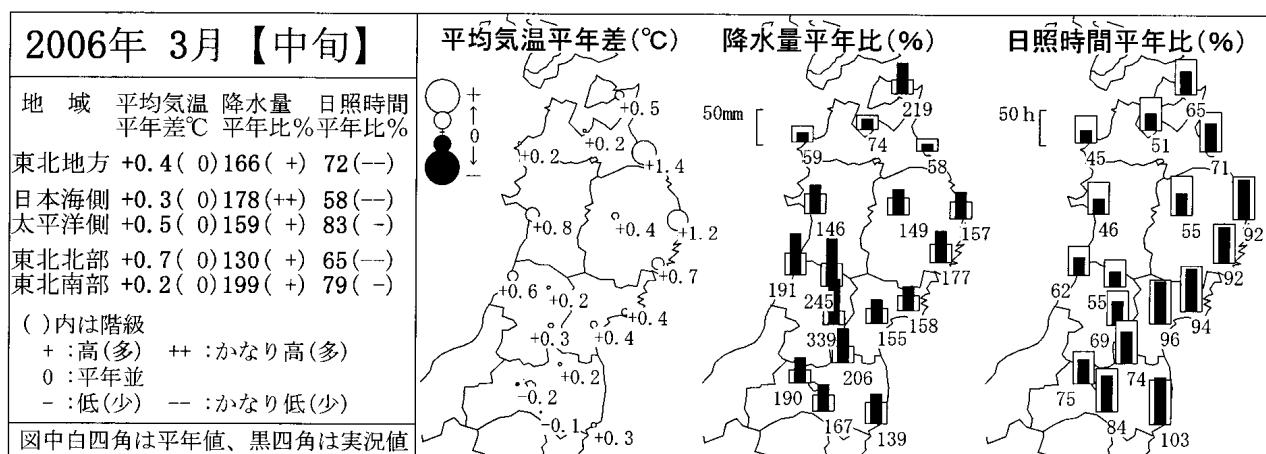
平均気温は高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間は多い。



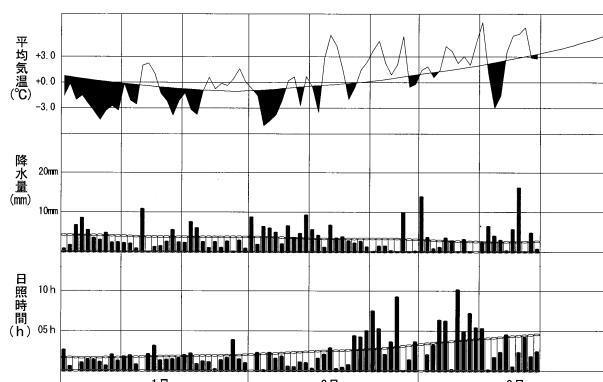
東北地方における3月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

3月中旬：低気圧や前線が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となる日が多くた。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が続いたが、東北太平洋側では晴れの日が多くた。20日は冬型の配置が強まつたため各地で記録的な暴風となり、屋根の飛散や交通障害が発生した。最大瞬間風速は、八戸で35.7メートル（3月の歴代1位）、大船渡で34.2メートル（3月の歴代2位）を観測した。

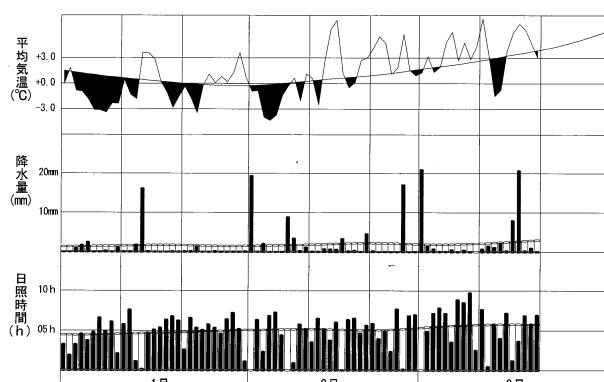
平均気温は平年並。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。



東北地方における3月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

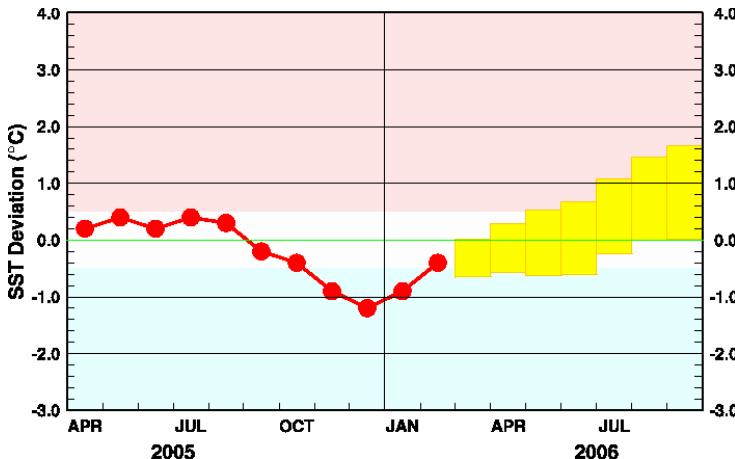
## 5. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

エルニーニョ監視速報 (No. 162) より抜粋。 (気象庁ホームページ: <http://www.jma.go.jp/>)

太平洋赤道域の海面水温は、中部から東部にかけて平年より低かった。海洋表層(海面から深度数百mまでの領域)の水温は、東部で負偏差、西部で正偏差が明瞭だった。太平洋赤道域の大気下層では東風偏差だった。

現在の太平洋赤道域の中・東部で海面水温が平年より低い状態は、ラニーニャ現象である可能性が高く、この状態は春まで続くとみられる。夏は基準値に近い値で推移するとみられる。

※今月号より新しい海面水温データを使用し、海面水温の基準値についても変更を行なった。



エルニーニョ予測モデルによるエルニーニョ監視海域の海面水温予測（基準値との差）

この図は、エルニーニョ監視海域の海面水温（基準値との差）の先月までの推移（折れ線グラフ）とエルニーニョ予測モデルから得られた今後の予測（ボックス）を示している。各月のボックスは、海面水温の基準値との差が70%の確率で入る範囲を示す（基準値はその年の前年までの30年間の各月の平均値）。

## 4. 参考資料

### ①. 平年の天気日数

	4月		5月		6月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日(日)	16.8	18.2	17.6	17.7	14.3	12.0
雨の日(日)	10.9	8.9	10.4	9.3	10.3	10.4

注: 季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間(太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間)で割った値である。

### ②. なだれと融雪災害

今冬は各地で記録的な積雪となりましたが、3月に入っても東北地方の山間部では平年を上回る積雪量となっています。4月は気温が上がり、まとまった雨が降りやすくなるため、なだれや融雪による土砂災害などが発生するおそれがあります。3月21日現在の東北各県で最も積雪が大きいアメダス地点と平年比は次のとおりです。

青森県酸ヶ湯	354センチ(118%)	秋田県阿仁合	82センチ(158%)
岩手県湯田	131センチ(132%)	山形県肘折	264センチ(106%)
宮城県駒ノ湯	35センチ(89%)	福島県只見	213センチ(150%)

また、積雪が多かった昨年の4月に発生したなだれや融雪による災害を下表にまとめました。

#### 昨年(2005年)4月に発生した融雪、なだれによる主な災害

災害発生日	発生県	気象要因	災害の概要
4月6~7日	青森県	気温の上昇と雨による融雪	地すべり、がけ崩れが多発し、リンゴ園で男性が巻き込まれたり、民家が半壊するなどの被害が発生した。また、市道が冠水する被害が発生した。
4月7~8日	秋田県	気温の上昇と雨による融雪	がけ崩れや河川の増水、市道の冠水、鉄道の路盤の崩落などが発生した。
4月27日	青森県	気温の上昇によるなだれ	八甲田山中で道路除雪作業現場になだれが発生し、作業員が巻き込まれた。